

産大レクチャー ●●● ア・ラ・カルト 〈201〉

8月中旬にトルコのイスタンブール工科大学で国際フォーラムに参加し、これをきっかけにイスタンブールを見学する機会を得た。

イギリスの歴史学者トインビーが「人類文明の生きている巨大な屋外博物館」と形容したように、イスタンブールは地理的にヨーロッパとアジアを結ぶ、トロイ、ヒッタイト、フェリキア、アッシリア、ペルシアのような古

までキリスト教の聖堂として信仰を集め、オスマン時代にイスラム教のモスクとして改修され、1600年以上の歴史を物語る。世界最大の聖堂の一つであり、イスラ

ム建築の自慢として、同じ建築にキリスト教とイスラム教が溶け込んでいる。

文明の十字路

ム建築の自慢として、同じ建築にキリスト教とイスラム教が溶け込んでいる。

ンアヤフメット・シャミイは巨大な大理石の柱で支えられ、天井の高さが43層にも及び、中央のドームが直径23層、それを四つの副ドームが囲み、さらにその周りを一三三つの小ドームが囲んでい

る。ドームの内側のタイルなどの装飾は美に多彩で緻密であつて、イスラム芸術の極致と評価されている。トプカプ宮殿というオスマン時代の宮殿には世界中から集めた夥

中に肉・魚・野菜・米・麵がそろっている。1660年に開設されたエジプトシャンバザールには西アジア・北アフリカのあるゆるスパイスが集まっていると言つても過言ではあるまい。

金光林

（おひたし）しい手物が展示されている。イスタンブールの町を歩くと、なぜトルコ料理が世界三大料理に数えられているのか頷く（うなづ）ける。まずはその材料の多様さである。ケバブの

トルコでは古くから多くの民族の国家が盛衰した。現在のトルコ民族の祖先は中央アジアに住んでいたチュルク人で、12世紀ごろにこの地にやってきた。それ以前のトルコの歴史はチュルク人とは直接な関係はない。そこでトルコの歴史は領土史と民族史に

分けられ、モンゴル高原から中央アジアにかけて552年に成立した突厥（とつげつ）をトルコ民族国家の始まりと意識していると言われる。イスタンブールの町を歩いたら、日本語が話せる店の人2名から日本の新潟県から来たと聞いて柏崎を知っていると聞いていた。かつてテーマパーク『柏崎トルコ文化村』があったために、トルコでは柏崎が知られているようである。

（教授）
|| 毎月1回掲載 ||

新潟産大の 校友会が総会

同大学講堂で21日

新潟産業大学校友会（通称「青濤会、内山和博会長）の本年度定期総会が21日午

後1時半から同大学講堂で開かれる。

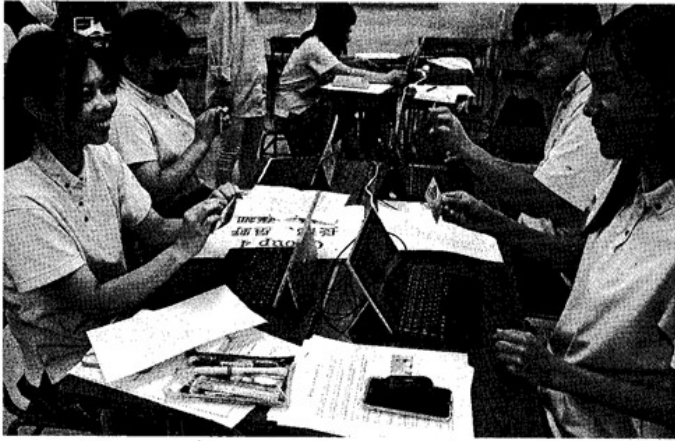
定期総会は3年ごとの開催で、前回は新型コロナウイルス感染症禍により書面議決だったため、通常開催は2018年度以来6年ぶりとなる。議決事項は過去3年分の事業・会計報告や事業・予算計画案、本部役員の変更など。問い合わせは同校友会（電話24・8444）へ。

韓国の高校生と オンライン交流

産大附属

産大附属高（藤井泰昭校長）は10日、韓国・水原（スウォン）の梅香女子情報高校と初めてオンライン交流会を開いた。産附からは韓国語講座を受講する1・2年生11人、梅香からは日本語クラブの2年生15人が参加した。

交流会は、両国の生徒同士がそれぞれの文化や関心事を共有し、相互理解を深めることが目的。生徒たちは四つのグループに分かれ、韓国や日本の観光地、人気スポット、芸能（K-POPや韓流ドラマ）など



画面を通し、自由に語り合った。

1年生の角美里さんは「交換会を楽しみにしていた。インスタを通し、私のことを覚えてもらえるよう

に自分の写真を送った」、2年生の長部実羽さんは「とても新鮮だった。ぜひ韓国に行ってみたい。交換した力カオトークでこれからも連絡を取り合いたい」と笑顔を見せた。

交流会には韓国語講座を教える新潟産大の蓮池薫教授と金光林教授も同席し、「互いのSNSを交換でき

各自のタブレットで韓国の高校生とフリートークをする生徒110日、産大附属高

たとは大きな一歩」と見守った。中村きみ代教諭は「生徒たちにはこの経験を生かし、韓国語講座に励んでほしい」と願い、「これを機会に今後も（梅香との）交流をさらに深めていきたい」と話した。

「新潟大学」 地域に学ぶ 地域を学ぶ

— 実践活動レポート —

世界の留学生 楽しく交流

「JAPANTENT」
— 世界留学生交流・いし
かわ2024 — が先日、
開催された。同イベント
は日本で学ぶ世界各国の
留学生が4日間石川県に
集まり、参加する留学生
同士やホストファミリー
で交流を深めながら、伝
統工芸や生活文化を学ぶ
というものだ。
世界に開かれた地域づ
くりを地元の人たちの
ふれあいを通して推進

し、未来に向けて新たな
世界像を創造することを
目的としている。

37回目の開催となった
今年も多くの留学生から
応募があり、約50の国と
地域から約100名の留
学生が参加し、石川県の
各市町村を会場とした大
規模な国際交流の場とな
った。

本学からもキョウシ
ヨウコンさん（院1年・
中国）が参加。本学の学
部で過ごした4年間で、
地域で行われたさまざま
な国際交流活動を経験し
たことから、同イベント

に以前から関心を持って
いたという。

キョウコンさんは「世界中
から集まった留学生たち
と交流し、会議やイベン
トに参加することで、た
くさんの新しい知識を得
て、素晴らしい友人がで
きました。3・4カ国語
を話せる学生をみると、
国際社会においての自分
の力不足を痛感し、勉強
への意欲がさらに高まり
ました。また、石川県の
風土を味わい、日本文化
に対する理解も深まりま
した。特に地元ホスト
ファミリーの方たちは人
情が厚く、留学生へ親切
に対応してくださり、人
の温かさも感じるものが
できました」と笑顔で振

り返った。
イベントを終え、帰っ
てきたキョウコンさんの言動
からは以前よりも一回り
成長した様子が随所に感
じられる。異国の地で各
国の留学生と学んで過
した経験が本人にとって
良い刺激になったことは
間違いないだろう。
（同大学地域連携センタ
ー）



ホームステイ先のキョウコンさん（左）

市民大学 後期7コース

10月開講 多彩なテーマで

市教育委員会は生涯学習講座「市民大学」の後期を10月から市民プラザなどで開く。「きつと見つかる ならない『私』」をテーマに、哲学対話や平安女子、俳句などをテーマにした計7コース。受講申し込みは今年20日まで。

ぶ喜び・楽しみ・生きがいを発見し、地域の活力へとつなげる。対象は18歳以上。開講回数、受講料は講座によって異なる。

申し込みは直接またははがき、ファクス、電子メールで講座名（複数可）・郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・電話番号・年代（10代の場合は年齢を記

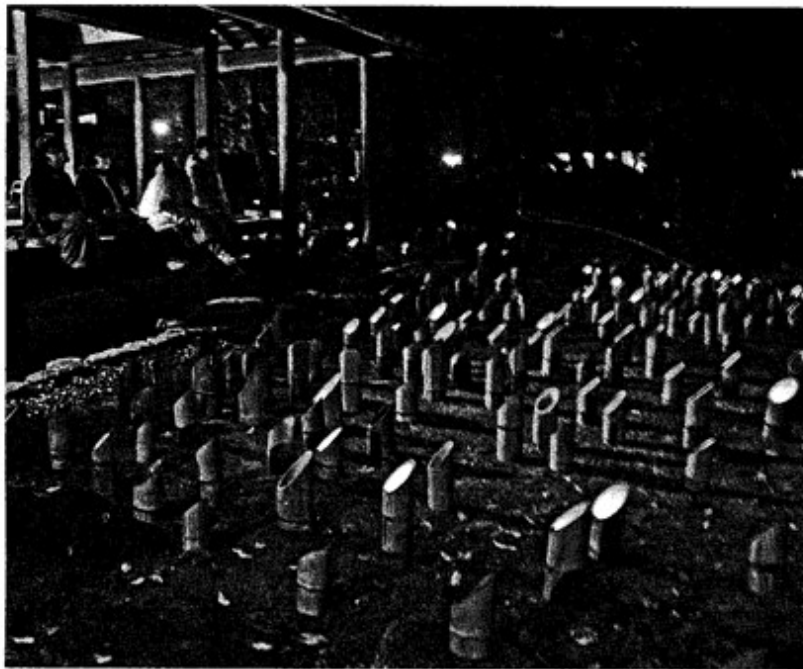
載）を記入し、文化・生涯学習課内、かしわさき市民大学事務局（〒945-0051、市内東本町1-3-24、ファクス22-26337、メールアドレス plaza@city.kashiwa.ac.jp）へ。市ホームページからの申し込みもできる。高校生世代（15〜17歳）のみで受講する場

合は保護者の承諾が必要。無料託児サービスもある。

定員を超える場合は抽選、定員に満たない場合は締め切り後も先着で受け付ける。問い合わせは同課（電話20・7500）。

開講は次の通りで、講座名と開講日、開始時間、定員、受講料の順。会場は香道体験（福蔵院）以外、市民プラザ。

【市民大学】哲学対話・哲学カフェで心すつきり 10月19日、11月23日 午後2時、20人、千円▽平安女子の女房生活 10月20日同、50人、500円▽世界一短い詩（うた） 俳句のいろはを学ぶ 10月22・29日、11月12日午後1時半、20人、1500円▽和食・洋食のテーブルマナー 11月16・30日午前11時、30人、2400円▽初めての香道体験 11月9日午後2時、20人、1500円▽水素が新エネルギーとしてなぜ注目されるのか、ポイントに渡（す）いの？・高校生世代以上対象 12月5・19日午後6時半、30人、千円▽「アンガーマネジメント」でイライラ感情をコントロールしよう 11月17日午後2時、50人、500円



初秋の夜に 竹あかり

「幻想的」と心和ませ

飯塚邸・秋幸苑彩る

ろうそくの明かりで初秋の夜を彩るイベント「ただ竹あかり」（高田コミユニティ振興協議会主催、秋

間一英会長）が21日、市内新道の市史跡・飯塚邸で開かれた。竹灯籠のやわらかな明かりが庭園・秋幸苑を

包み、訪れた人たちは「とても幻想的」と感嘆の声を上げた。

「竹あかり」は環境美化事業の一環。荒れた竹林の整備と竹の有効活用を目指し、2014年から開かれてきた。今年は事前に、地区内全町内がそれぞれ伐採した竹10本を持ち寄り、町内ボランティア、コミセン専門部が20、30本の竹灯籠に加工した。

この日は高田コミセンで併催のイベントほつたが、だ食堂も開かれた。さまざまな出店協力があり、多くの人でにぎわった。

この日はエントランスを色とりどりのLEDの灯籠で飾り、庭園内には約千個の竹灯籠をすらりと配置した。初めて訪れたという新赤坂の猪浦恵美子さんは「雨を押ししてきたかいた。とっても幻想的です」と言い、友人の属町、力石真由美さんは「お庭もいじけれど、エントランス

ろうそくの明かりがともされた竹灯籠によるイベント「竹あかり」21日夜、市内新道の飯塚邸

の灯籠もすこいと満足。庭園の風景をスマホのカメラに収めた野田の品田尚美さん、スミエさん夫婦も初めて訪れた。「雨で中止かなと諦めていたが、来て良かった。明かりの美しさがなんとも言えない」と竹灯籠に見入った。

竹を配置したり、点火を手伝ったりした新潟産大権田セミからは16人が参加。

この一人、3年・平井創大さんは「この行事には初めて参加した。ろうそくの火が消えて大変だが、地域の人が一緒に、活動できて良かった」と点火の補充に追われた。

秋間会長は「天気が味方をしてくれ、雨がやむのを待ち、予定通り実施できた。地域が一体になり、飯塚邸を大事にしようという思い

で取り組んだ。来場者から『素晴らしい』と言ってもらえ、やりがいがあった。来年の開催については、諸事情を含め、これから検討しなければならぬ」と話した。

この日は高田コミセンで併催のイベントほつたが、だ食堂も開かれた。さまざまな出店協力があり、多くの人でにぎわった。

産大レクチャー

●●● ア・ラ・カルト

〈202〉

大学のキャンパスを歩いていると、授業の合間にスマートフォンに夢中になっている学生をしばしば目にする。友人と話しながらスマートフォンを操作する学生や、ベンチに座ってすぐにスマートフォンを取り出すグループの姿も、今では日常の光景となっている。このような場面は、キャンパスだけでなく、通勤

電車やカフェ、公園でも頻繁に見られるようになった。スマートフォンの普及により、私たちはさまざまな場面でその利便性を享受している。たとえば、朝起きて天気を確認し、通勤・通学中にニュースをチェックし、休憩時間には友人からのメッセージに返信するなど、日常生活に欠かせない

ツールとなっている。さらに、ショッピングや食事の合間にSNSに写真を投稿したり、余暇に映画や音楽、スポーツを楽しむんだりすることも可

の過度な使用は、時間の管理を困難にし、勉強や仕事、食事、睡眠に悪影響を及ぼすことがある。その結果、家庭生活や社会生活にも支障が生じ、

現代社会では、スマートフォンなしの生活を想像することは難しいかもしれない。しかし、特に未成年者にとっては、ス

を防ぐためには、大人が手本を示すことが重要である。特に親は、子どもの前でスマートフォンの使用を控え、一緒に自然の中で遊ぶなど、実際の体験を増やすことが推奨される。このような体験を通じて、子どもはスマートフォン以外の世界にも魅力があることを学び、依存を予防することができるのである。

また、家庭内でスマートフォンの使用時間をあらかじめ決め、家族全員でそのルールを守ることも効果的である。現代の情報社会において、スマートフォンがもたらす利便性は計り知れないが、過度な依存によるリスクにも目を向ける必要がある。私たち大人が日常生活の中でスマートフォン使用のバランスを見直し、子どもたちが健康でバランスの取れた生活を送れるよう手本を示すことが、今後ますます求められている。

スマホ依存

リスクと対策

雲居 陳之

能である。スマートフォンは、日常生活を大いに便利にし、いつでもどこでも情報や娯楽にアクセスできる不可欠な存在である。

睡眠不足や集中力の低下、目の疲労など、身体的な健康被害を招く可能性も高まる。このような状態が自分で制御できなくなると、「スマホ依存」という深刻な状態に陥る

マホ依存が大きな問題となり得る。未成年者は自己管理能力が未熟であり、スマートフォンの使用時間を適切にコントロールすることが難しいためである。こうした依存

また、家庭内でスマートフォン使用時間をあらかじめ決め、家族全員でそのルールを守ることも効果的である。現代の情報社会において、スマートフォンがもたらす利便性は計り知れないが、過度な依存によるリスクにも目を向ける必要がある。私たち大人が日常生活の中でスマートフォン使用のバランスを見直し、子どもたちが健康でバランスの取れた生活を送れるよう手本を示すことが、今後ますます求められている。

（経済学部講師）
毎月1回掲載